

島原市水無川流域の火山観光化施設における観光動態調査

福岡県庁 正会員 ○園田 雅樹 長崎大学工学部 フェロー会員 高橋 和雄
長崎大学工学部 正会員 中村 聖三 大分県庁 正会員 二宮 耕平

1. まえがき

雲仙普賢岳の噴火災害(1990年～1995年)により、水無川流域では家屋や田畑の流焼失等多大な被害を受け、それに伴い多くの人々が島原を離れた。噴火活動も停止状態になり、復興事業も進んできたが、人口をもとの状態に戻すことは大変困難である。島原地域では従来の観光資源である歴史的建造物や温泉に加え、新たに火山を観光資源とし、観光客(交流人口)を増加させ地域の活性化を図ろうという取り組みがなされている¹⁾。そこで、本研究では、火山観光化の一環である旧大野木場小学校被災校舎と道の駅(土石流被災家屋保存公園)で実施したアンケート調査の結果を報告する。それをもとに、今後の火山観光化に向けての課題を明らかにする。

2. アンケート調査の分析結果

(1) アンケート調査の概要 アンケート調査は、秋の行楽シーズンである平成11年11月の大型連休を利用して21日に旧大野木場小学校で、同23日に道の駅で観光客を対象に、調査員2人によるヒアリング調査を行った。質問項目は、観光客の動態、交通アクセス及び火山観光化を問うものである。回収数は旧大野木場小学校で58、道の駅で105である。調査対象地域を図-1に示す。

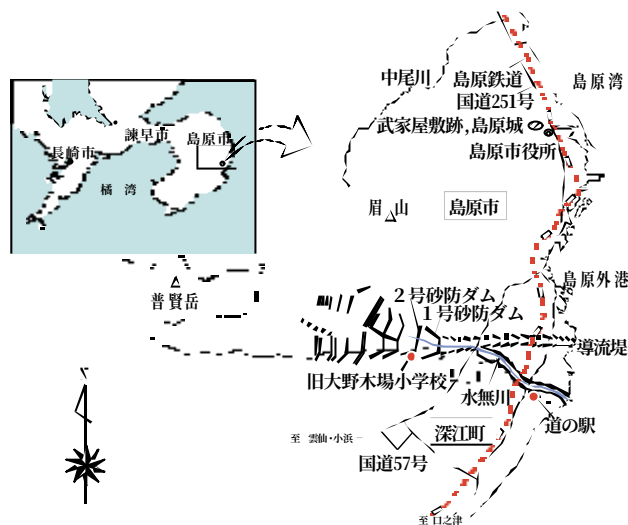


図-1 調査対象地域

(2) 観光客の動態について 「どこから来ましたか」という問について結果を図-2に示す。大型連休ということもあり、県外からの観光客が目立つ。旧大野木場小学校では九州外からの観光客も多く含まれている。「宿泊」については、旧大野木場小学校を訪れた観光客は宿泊が74%(1泊48.3%、2泊以上25.7%)であるのに対し、道の駅を訪れた観光客は半数以上(53%)が日帰りである。また、旧大野木場小学校を訪れた人の37.9%が道の駅を訪れているのに対し、道の駅を訪れた人の12.4%しか旧大野木場小学校を訪れていない。旧大野木場小学校は火山災害の学習体験施設であるのに対して、道の駅は観光以外の目的で利用することも考えられるが、道の駅を訪れた観光客に旧大野木場小学校を始め観光施設のパンフレットや行先案内といった情報を伝えることは大切である。

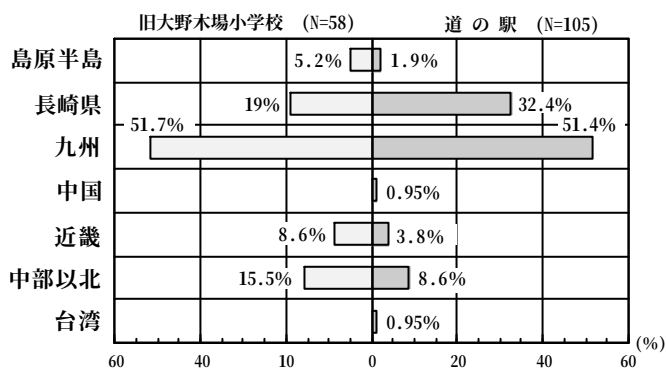


図-2 観光客の住所

(3) 交通について 「島原での移動手段」について、旧大野木場小学校では自家用車(51.7%)、観光バス(22.4%)、レンタカー(12.1%)の順である。これは鉄道や路線バスといった公共交通機関を利用して島原へ来た観光客が、島原での主な移動手段にレンタカーやタクシーを利用しているためである。国道251号沿いの道の駅では自家用車(79.0%)が主である。また、旧大野木場小学校、道の駅ともに公共交通機関を主な移動手段としている観光客は少ない。島原市街地から離れた火山観光施設は、公共交通機関ではアクセスしづらいということが言える。火山観光施設を定期的に周遊するバス等の低料金の交通機関

の整備が望まれる。島原観光に自動車を利用した観光客を対象にした「当地での駐車を含めて、スムーズに移動できましたか」という問に対して、「はい」と答えた観光客は全体の 85.6%で、多くの観光客が車での移動に対して不満を持っていないことが分かる。また、少数ではあるが「いいえ」と答えた観光客の理由は、60%が「当地までの案内標示が不十分だった」という回答である。

(4) 観光整備について 「島原地域を観光するために今後望むことを教えて下さい」の問に対して、図-3 のような結果が得られる。「観光案内標識の充実」という回答が多く、特に旧大野木場小学校を訪れた回答者の約半数が観光案内標識の設置を望んでいる。これは、前問の「スムーズに移動出来なかった理由」と合わせて、大きな問題である。

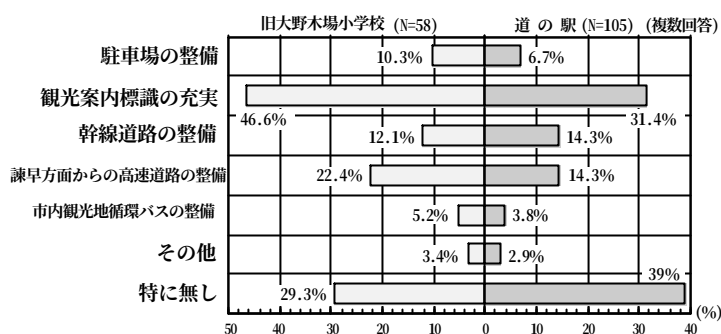


図-3 観光客の望む整備

(5) 島原観光について 「島原には噴火以前に來たことがありますか」という問では、全体の 36.8%が「ある」と答えている。続いて「噴火前と比べて観光の魅力はどうか」を聞いたところ半数以上(56.5%)が「噴火前と比べて観光の魅力は増大している」と感じている。また、「あなたは火山観光化についてどう思いますか」という問に対して、大多数(79.8%)が火山観光化に「賛成」としており、火山観光化が好意的に受け取られている。次に、「平成7年5月に火山噴火は停止状態であることが確認されています。観光するにあたってどう思われますか」という問に対して、図-4 のような結果が得られる。

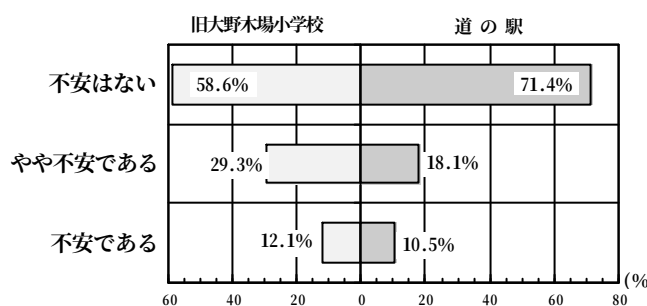


図-4 観光客の火山噴火に対する不安感

「不安はない」が最も多いが、道の駅の 71.4%に比べ旧大野木場小学校では 58.6%と低く、水無川上流域の被災校舎と周辺の地域を見た人の 41.4%が多少なりとも不安を感じている。大野木場地区では、安全に対する説明文や避難についての情報が必要と考えられる。「島原地域全域の復興を図るために、長崎県が『がまだす計画』を策定したことを知っていますか」という問に対しては、

「知っている」と答えた観光客は全体の 40.5%で、地域別では、長崎県内の回答者の 80%以上が「知っている」と回答している。長崎県内ではPRが十分にされているということが表れている。次に、旧大野木場小学校被災校舎を見学した観光客のみを対象とした「旧大野木場小学校の周辺は将来火山砂防学習の拠点として整備される計画ですが、どのような整備が必要と思いますか」という問に対しては、「展望塔の整備」や「砂防施設内の遊歩道の整備」といった防災施設を身近に見たいという回答が多い。

3. まとめ

- 1) 旧大野木場小学校、道の駅ともに公共交通機関を主な移動手段としている観光客は少ない。島原市街地から離れた火山観光施設は、公共交通機関ではアクセスしづらいことがわかる。
- 2) スムーズに移動出来なかった理由および島原地域を観光するために今後望むこととして観光案内標識の充実が挙げられる。
- 3) 大野木場地区では、安全に対する説明文や避難についての情報が必要と考えられる。また、旧大野木場小学校の周辺整備では、多くの観光客が防災施設を身近に見ることができるような整備を望んでいる。

参考文献

- 1) 島原地域再生行動計画策定委員会：島原地域再生行動計画（がまだす計画）、全 133 頁、1997.3.